

山梨県宮ノ前遺跡における植物圧痕分析

中山誠二（山梨県立博物館）

関間俊明（韮崎市教育委員会）

1 遺跡の概要と分析資料

宮ノ前遺跡は、山梨県韮崎市藤井町字宮ノ前地内に所在する。韮崎市東部地域を南北に貫流する塩川の右岸、古代後半～中世初頭にかけて形成された比較的新しい河岸段丘面上、標高 388m 付近に立地する。遺跡周辺は「藤井平」を呼ばれ、古くからの穀倉地帯として知られている。発掘調査では、縄文時代前期・中期・後期、奈良・平安時代の竪穴住居跡が 423 軒、奈良・平安時代の掘立柱建物跡 54 棟、縄文時代中期の配石遺構 6 基のほか、土坑、単独埋甕などが検出されている。また、旧河道域においては弥生時代前期段階の水田跡、平安時代の水田および溝状遺構が確認されている（韮崎市遺跡調査会他 1992）。

今回の圧痕調査は、遺跡から出土した全時期の土器を対象として悉皆的に行い、肉眼観察で抽出された圧痕土器 116 点についてレプリカを作成し、分析を行った（第 1～4 図）。

2 試料の分析方法

本調査では、縄文土器の表面に残された圧痕の凹部にシリコン樹脂を流し込んで型取りし、そのレプリカを走査電子顕微鏡（SEM）で観察する「レプリカ法」と呼ばれる手法を用いる（丑野・田川 1991）。

作業は、①圧痕をもつ土器試料の選定、②土器の洗浄、③資料化のため写真撮影、④圧痕部分のマイクロスコープでの観察、⑤圧痕部分に離型剤を塗布し、シリコン樹脂の充填、⑥これを乾燥させ、圧痕レプリカを土器から転写・離脱、⑦圧痕レプリカを走査電子顕微鏡用の試料台に載せて固定、⑧蒸着後、走査電子顕微鏡（日本 FEI 製 Quanta600）を用いて転写したレプリカ試料の表面観察、⑨現生試料との比較による植物の同定という手順で実施した。

なお、離型剤にはアクリル樹脂（パラロイド B-72）をアセトンで薄めた 5% 溶液を用い、印象剤には歯科用印象剤 JM シリコンを使用した。

3 同定結果

MYM04（第 5 図 1～4）

土師器の坏胴部内面から圧痕が検出された。

圧痕は、現存長 5.5 mm、幅 3.6 mm、厚さ 2.5 mm の植物圧痕である。平面形状は細長い楕円形を呈し、側面形は扁平となる。種子長軸方向に隆起部が 2 本見られ、基部の片方に胚（embryo）と見られる欠損部が認められる。形状や大きさなどから玄米（brown rice）の状態のイネ（*Oryza sativa* L.）と判断される。

MYM08（第 5 図 5～8）

縄文中期の深鉢土器底部片。底部内面に圧痕が確認された。

圧痕は、長さ 8.4mm、幅 5.2mm の楕円形を呈する。表皮には若干のしわが認められるが、ほぼ平滑である。同定の鍵となる部位が認められず、不明種とする。

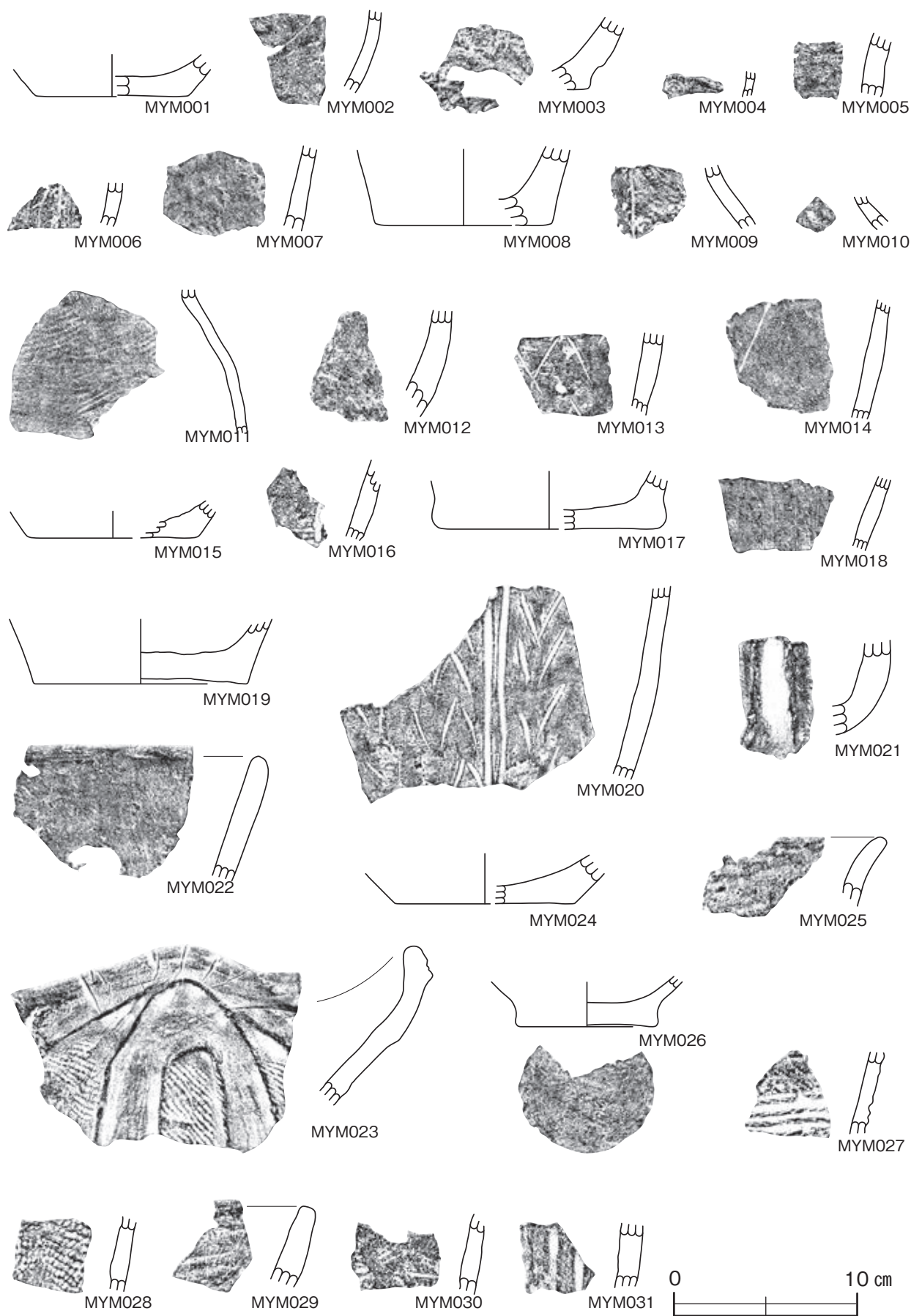
MYM10（第 5 図 9～12）

胴部内面から圧痕が検出された。

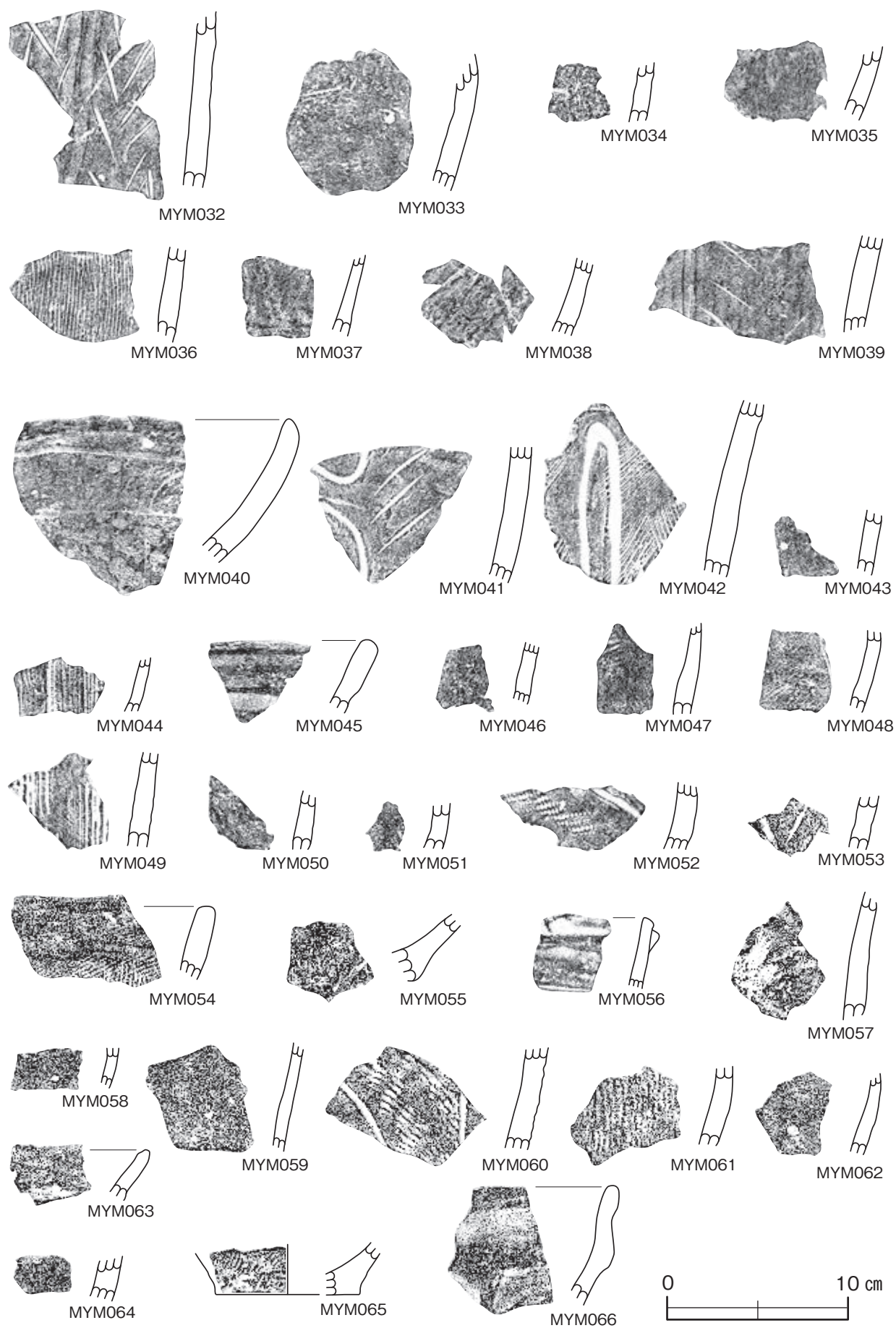
圧痕は、長さ 4.3mm、幅 3.6mm の楕円球状を呈する。表皮はほぼ平滑である。同定の鍵となる部位が認められず、不明種とする。

MYM12（第 5 図 13～16）

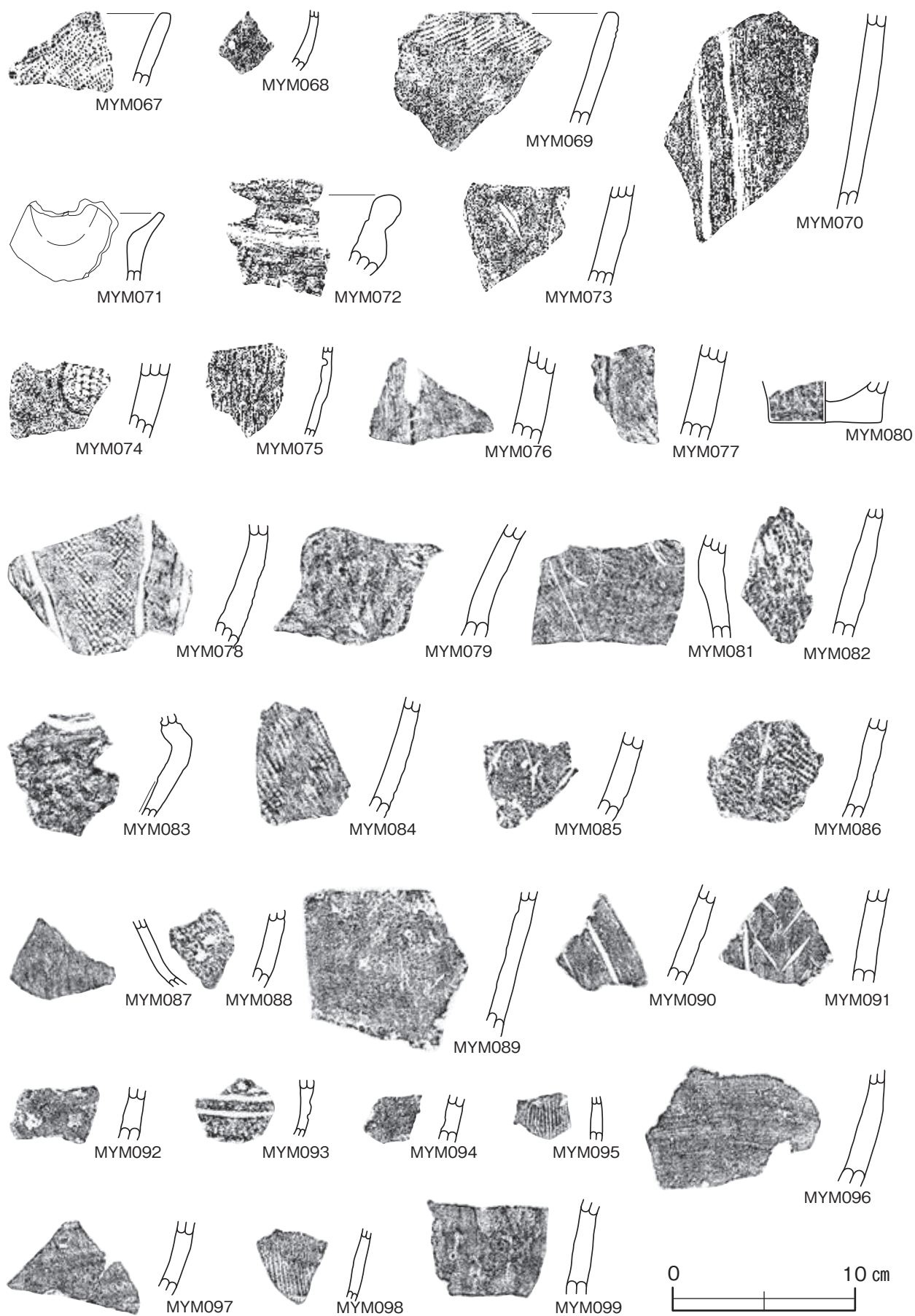
圧痕は、長さ 6.6mm、幅 4.4mm の楕円形を呈し、一端部がやや平坦となる。表皮は平滑であるが、一部外皮が破れている。大きさ、形状はアズキに類似するが、臍等の同定根拠が認められないためマメ科（Fabaceae）



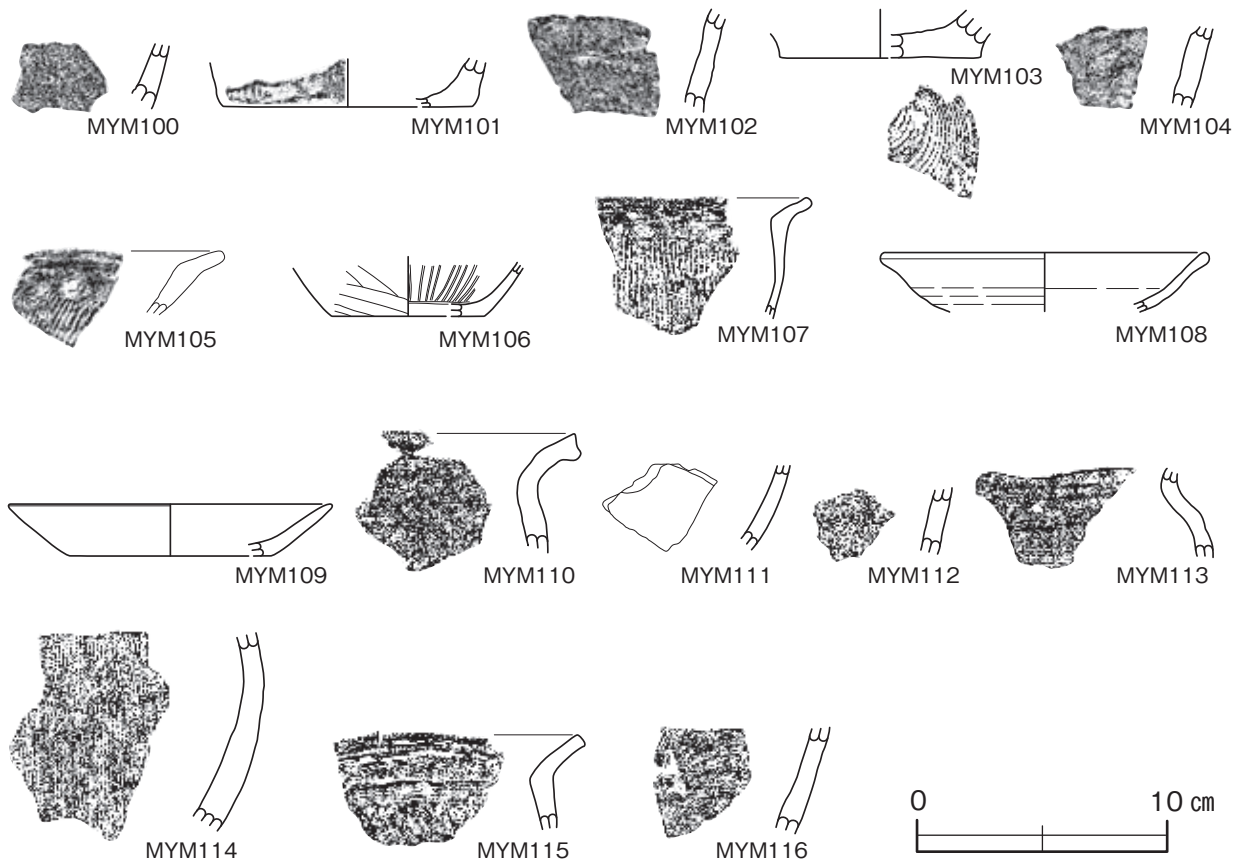
第1図 宮ノ前遺跡圧痕土器1



第2図 宮ノ前遺跡圧痕土器2



第3図 宮ノ前遺跡圧痕土器3



第4図 宮ノ前遺跡圧痕土器4

種実とする。

MYM13 (第5図17～24)

外面にハの字状の沈線を施す深鉢形土器胴部片で、曾利V式と判断される。外面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ5.7mm、現存幅3.9mm、厚さ3.6mmの俵状を呈し、一端部がやや平坦となる。表皮は平滑で、中央部からやや端部に偏って臍、端部に種瘤が認められる。臍は長さ2.2mm、幅0.6mmの長円形で、周囲を臍縁で囲まれ、内部は舟底状で臍溝は認められない。大きさ、形状、被膜型の臍、種瘤などの特徴から、アズキ (*Vigna angularis*) と判断される。

MYM26-1 (第6図1～4)

弥生時代の甕形土器底部片で、内面および断面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ6.8mm、幅3.4mm、厚さ3.0mmの扁平な楕円形を呈し、基部に小穂軸、先端部には芒が欠損した痕跡が認められる。表皮は顆粒状突起で覆われ、長軸方向に維管束に伴う隆起部が見られ、内外穎が明瞭に認められる。大きさ、形状、表皮の特徴から、イネ (*Oryza sativa* L.) と判断される。

MYM26-2 (第6図5～8)

圧痕は、長さ6.9mm、幅3.6mm、厚さ2.9mmの扁平な楕円形を呈する。先端部は欠損するが、基部には小穂軸と護穎が認められる。表皮は顆粒状突起で覆われ、長軸方向に維管束に伴う隆起部が見られ、内外穎が明瞭に認められる。大きさ、形状、表皮の特徴から、イネ (*Oryza sativa* L.) と判断される。

MYM30 (第6図9～12)

縄文土器深鉢胴部片。断面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ5.8mm、幅5.4mmの球状を呈する。表皮はほぼ平滑であるが、同定の鍵となる部位が認められず、不明種とする。

MYM32 (第6図13～16)

外面に隆帯とハの字状文を施す曾利V式の深鉢形土器胴部片で、外面から圧痕が検出された。

表1 宮ノ前圧痕一覧

番号	試料名	時代	時期	型式	遺構名	土器の部位	植物圧痕の有無	植物同定
1	MYM001	縄文時代?			A20B25	深鉢底部	×	
2	MYM002	古墳時代	前期		A20B25	壺 胴部	×	
3	MYM003	縄文時代			A19B25	深鉢底部	×	
4	MYM004	平安時代			A23B24	坏 胴部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.) 玄米
5	MYM005	不明			203住	深鉢 胴部	×	
6	MYM006	縄文時代	中期	曾利式?	A27B27	壺 胴部	×	
7	MYM007				3 0 8 住	深鉢 胴部	×	
8	MYM008	縄文時代	中期		3 0 8 住	深鉢 底部	○	不明種
9	MYM009-1	縄文時代	中期	曾利式 (Ⅱ?)	8 0 住	深鉢 胴部?	×	
10	MYM009-2	縄文時代	中期	曾利式 (Ⅱ?)	8 0 住	深鉢 胴部?	×	
11	MYM010	不明			1 1 住		○	不明種
12	MYM011	平安時代			A17B24	甕 胴部	×	
13	MYM012	縄文時代	中期	曾利?	A23B27	深鉢 胴部	○	マメ科? (Fabaceae)
14	MYM013	縄文時代	中期	曾利 V	5 1 号掘立	深鉢 胴部	○	アズキ (<i>Vigna angularis</i>)
15	MYM014	縄文時代	中期	曾利式 (V?)	A22B29		×	
16	MYM015	不明			A18B29	深鉢 底部	×	
17	MYM016	縄文中期	中期	曾利式 (Ⅳ~Ⅴ?)	A19B25	深鉢 胴部	×	
18	MYM017	縄文時代?			A19B25	深鉢 底部	×	
19	MYM018	不明			A19B25	深鉢 胴部	×	
20	MYM019-1	縄文時代	中期		A19B25	深鉢 底部	×	
21	MYM019-2	縄文時代	中期		A19B25		×	
22	MYM019-3	縄文時代	中期		A19B25		×	
23	MYM020	縄文時代	中期	曾利 V 式	A22B28	深鉢 胴部	×	
24	MYM021	縄文時代	中期	曾利 V 式	A22B28	深鉢 把手	×	
25	MYM022	縄文時代	中期	曾利 V 式	A22B28	深鉢 口縁部	×	
26	MYM023	縄文時代	中期	加曾利E4式	A21B27	深鉢 口縁部	×	
27	MYM024	不明			A21B27	深鉢 底部	×	
28	MYM025	弥生時代?			A21B27	甕 口縁	×	
29	MYM026-1	弥生時代	前期		-	甕 底部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)
30	MYM026-2	弥生時代	前期			甕 底部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)
31	MYM026-3	弥生時代	前期			甕 底部	×	
32	MYM027	縄文時代	前期後葉	諸磯b式	890414	深鉢 胴部	×	
33	MYM028	縄文時代	前期?		表採	深鉢 胴部	×	
34	MYM029-1	縄文時代?			A21B27	深鉢 胴部	×	
35	MYM029-2	縄文時代?			A21B27	深鉢 胴部	×	
36	MYM030	縄文時代			A25B26	深鉢 胴部	○	不明種
37	MYM031	縄文時代	中期	曾利Ⅳ~Ⅴ式	2 7 8 住	深鉢 胴部	×	
38	MYM032	縄文時代	中期	曾利 V	A22B26	深鉢	○	不明種
39	MYM033	縄文時代			A22B26	深鉢 胴部	×	
40	MYM034	不明			A22B26	深鉢 胴部	×	
41	MYM035	不明			3 1 8 住	深鉢 胴部	×	
42	MYM036	平安時代			7 3 住	長胴甕 胴部	×	
43	MYM037	不明			1 8 0 住	深鉢 胴部	×	
44	MYM038	不明			4 2 4 住	胴部	×	
45	MYM039	縄文時代	中期	曾利 V 式	A20B26	深鉢 胴部	×	
46	MYM040	縄文時代	中期	曾利 V 式	A25B26	深鉢 口縁部	×	
47	MYM041	縄文時代	中期	曾利 V 式	A26B25	深鉢 胴部	×	
48	MYM042	縄文時代	中期	曾利Ⅳ式	3 3 7 住	深鉢 胴部	×	
49	MYM043	不明			7 8 住	深鉢 胴部	×	
50	MYM044	古墳時代			A23B24	甕 胴部	×	
51	MYM045	縄文時代	中期	曾利Ⅳ式	A20B23	深鉢 口縁部	×	
52	MYM046	不明			1 2 6 住	胴部	×	
53	MYM047	不明			3 0 7 住	胴部	×	
54	MYM048	古墳時代			A24B23	甕 胴部	×	
55	MYM049	縄文時代	中期	曾利Ⅳ式	8 9 住	深鉢 胴部	×	
56	MYM050	不明			A16B29	胴部	×	
57	MYM051	不明			A19B26	胴部	×	
58	MYM052	縄文時代	中期	加曾利E4式	7 2 住	深鉢 胴部	×	
59	MYM053	縄文時代	中期	曾利 V	A20B27	深鉢 胴部	○	ダイズ (<i>Glycine max</i>)
60	MYM054	縄文時代	中期	加曾利E4式	A21B27	深鉢 口縁部	×	
61	MYM055	不明			A21B27	底部	×	
62	MYM056	縄文時代	後期	堀之内Ⅰ式	A16B30	深鉢 口縁部	×	
63	MYM057	縄文時代	後期?		A16B30	深鉢 胴部	×	
64	MYM058	古墳時代?			2 7 溝	胴部	○	不明種

番号	試料名	時代	時期	型式	遺構名	土器の部位	植物圧痕の有無	植物同定
65	MYM059	縄文時代	後期	堀之内Ⅰ式	2 7 溝	深鉢 口縁部	×	
66	MYM060	縄文時代	中期～後期	加曽利E4式?	A20B27	深鉢 胴部	×	
67	MYM061	縄文時代	中期～後期		A16B24	深鉢 胴部	×	
68	MYM062	不明			A23B28	深鉢 胴部	×	
69	MYM063	縄文時代			1 1 3 住	深鉢 口縁部	×	
70	MYM064	不明			1 1 3 住	胴部	×	
71	MYM065	平安時代			3 3 7 住	甕 底部	×	
72	MYM066	縄文時代	中期	曾利Ⅳ～Ⅴ式	1 河	深鉢 口縁部	×	
73	MYM067	縄文前期	前期	諸磯c式	A15B24	深鉢 口縁部	×	
74	MYM068	不明			4 号配石	胴部	×	
75	MYM069	縄文時代	後期		A22B27	深鉢 口縁部	×	
76	MYM070	縄文時代	中期	曾利Ⅳ式	4 1 7 住	深鉢 胴部	×	
77	MYM071	縄文時代	後期		1 号河道	注口土器 口縁部	○	ヤブツルアズキ (<i>Vigna angularis</i>)
78	MYM072	縄文時代	中期	曾利Ⅳ式	A18B26	深鉢 口縁部	×	
79	MYM073	縄文時代	中期	曾利Ⅴ	A18B26	深鉢 胴部	×	
80	MYM074	縄文時代	中期	加曽利E4式	1 8 1 住	深鉢 胴部	○	不明種
81	MYM075	平安時代			1 8 1 住	長胴甕 胴部	○	茎部ないしは木材片
82	MYM076	縄文時代	中期	加曽利E4式	A21B27	深鉢 胴部	×	
83	MYM077	縄文時代	中期	加曽利E4式	7 9 住	深鉢 胴部	×	
84	MYM078	縄文時代	中期	曾利Ⅳ～Ⅴ式	A16B25	深鉢 胴部	×	
85	MYM079	縄文時代	中期	曾利Ⅳ～Ⅴ式	A16B25	深鉢 胴部	○	ダイズ (<i>Glycine max</i>)
86	MYM080	縄文時代	中期	曾利式?	2 5 溝	深鉢 底部	○	ダイズ近似種 (cf. <i>Glycine max</i>)
87	MYM081	縄文時代	中期	曾利Ⅴ	1 3 3 住	深鉢 胴部	×	
88	MYM082	不明			A18B25	胴部	×	
89	MYM083	縄文時代	後期	堀之内式	A19B25	注口土器 口縁部	×	
90	MYM084	縄文時代	中期	加曽利E4式?	A22B28	深鉢 胴部	○	ダイズ (<i>Glycine max</i>)
91	MYM085-1	縄文時代			A22B28	胴部	×	
92	MYM085-2	縄文時代			A22B28	胴部	×	
93	MYM085-3	縄文時代			A22B28	胴部	×	
94	MYM086	縄文時代	中期	加曽利E4式	2 4 住	深鉢 胴部	×	
95	MYM087	古墳時代			2 4 住	高坏 脚部	×	
96	MYM088	不明			2 4 住	胴部	×	
97	MYM089	縄文時代			A22B29	深鉢 胴部	○	マメ科 (<i>Fabaceae</i>)
98	MYM090	縄文時代	中期	曾利Ⅳ～Ⅴ式	3 6 住	深鉢 胴部	×	
99	MYM091	縄文時代	中期	曾利Ⅴ	A19B27	深鉢 胴部	×	
100	MYM092	不明			A21B24	胴部	×	
101	MYM093	縄文時代	後期	堀之内式	A23B28	深鉢 胴部	×	
102	MYM094	不明			A23B22	胴部	×	
103	MYM095	平安時代			1 号河道	長胴甕 胴部	×	
104	MYM096	弥生時代			1 号河道	甕 胴部	×	
105	MYM097	平安時代?			A18B23		○	材
106	MYM098	古墳前期	前期		2 8 6 住	甕 胴部	×	
107	MYM099	不明			2 1 7 住	胴部	×	
108	MYM100	平安時代?			4 1 2 住		○	不明種
109	MYM101	平安時代			1 河	長胴甕 胴部	×	
110	MYM102	平安時代?			A19B25		○	マメ科? (<i>Fabaceae</i>)
111	MYM103	平安時代			A20B23	底部	×	
112	MYM104	不明			4 1 4 住	胴部	×	
113	MYM105	平安時代			A22B26	長胴甕 口縁部	○	マメ科 (<i>Fabaceae</i>)
114	MYM106	平安時代			9 9 住	坏 底部	×	
115	MYM107	平安時代			A22B25	長胴甕 口縁部	×	
116	MYM108	平安時代			8 4 住	坏 口縁部	○	マメ科? (<i>Fabaceae</i>)
117	MYM109	平安時代			3 3 1 住	坏 口縁部	×	
118	MYM110	平安時代			3 2 8 住	長胴甕 口縁部	×	
119	MYM111	平安時代			3 6 8 住	碗 口縁部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)
120	MYM112	弥生時代?			2 7 1 住	胴部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)
121	MYM113	弥生時代			3 9 8 住	甕 口縁部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)
122	MYM114	古墳時代			A21B30	甕 胴部	×	
123	MYM115	平安時代			2 1 1 住	長胴甕 胴部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)
124	MYM116	平安時代			7 7 住	甕 胴部	○	イネ (<i>Oryza sativa</i> L.)

圧痕は、長さ 5.3mm、幅 3.0mm の半円形を呈し、側面そって溝が走る。表皮はほぼ平滑であるが、同定の鍵となる部位が認められず、不明種とする。

MYM53 (第 6 図 17 ~ 24)

外面にハの字状の沈線を施す深鉢形土器胴部片で、曽利 V 式と判断される。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、現存長 6.1mm、幅 5.7mm、厚さ 5.2mm の楕円形を呈し、一端部が曲線的にやや突き出る。長軸中央部に臍が存在する。臍は長さ 2.5mm、幅 1.3mm の長円形で、周囲を臍縁で囲まれ、内部中央部に臍溝が認められる。表皮は平滑である。大きさ、形状、露出型の臍などの特徴から、ダイズ (*Glycine max subsp. max*) と判断される。

MYM58 (第 6 図 21 ~ 24)

無文の深鉢形土器胴部片。外面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 5.1mm、幅 2.5mm、厚さ 2.3mm の楕円形を呈し、両端部先端がわずかに突き出る。表皮に凹凸があり、長軸方向に沿って維管束と見られる隆帯が走るが、同定の鍵となる部位が認められず、不明種とする。

MYM71 (第 7 図 1 ~ 4)

片口をもつ深鉢形土器口縁部片。口縁内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 4.3mm、幅 2.3mm、厚さ 2.4mm の俵状を呈し、両端部がやや曲線的に膨らむ。表皮は平滑で、中央部からやや端部に偏って臍が認められる。臍は長さ 2.5mm、幅 0.5mm の長円形で、周囲を臍縁で囲まれ、内部は舟底状で臍溝は認められない。大きさ、形状、被膜型の臍などの特徴から、ヤブツルアズキ (*Vigna angularis var. nipponensis*) と判断される。

MYM74 (第 7 図 5 ~ 8)

曲線的な隆帯内部を縄文で充填する深鉢形土器胴部片。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 10.7mm、幅 5.6mm の楕円形を呈する。表皮には凹凸があるが、同定の鍵となる部位が認められず、不明種とする。

MYM75 (第 7 図 9 ~ 12)

粗い条線をもつ深鉢形土器胴部片。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 5.3mm の円筒形を呈し、表皮には縦方向に凹凸が見られる植物の茎片ないしは木材片と考えられる。

MYM79 (第 7 図 13 ~ 20)

無文の深鉢形土器胴部片、外面から圧痕が検出された。

圧痕は、現存長 10.4mm、幅 7.4mm、厚さ 6.1mm の楕円球状を呈し、両端部が曲線的に膨らむ。長軸中央部に臍が存在する。臍は長さ 3.2mm、幅 1.3mm の長円形の臍縁で囲まれ、内部中央部に臍溝が認められる。表皮は平滑である。大きさ、形状、露出型の臍などの特徴から、ダイズ (*Glycine max subsp. max*) と判断される。

MYM80 (第 7 図 21 ~ 24)

深鉢形土器底部片で、底面から圧痕が検出された。

圧痕は、現存長 8.3mm、幅 4.9mm の楕円球状を呈する。長軸中央部に臍が存在するが、臍の形状や構造は確認できない。表皮は平滑である。大きさ、形状の特徴から、ダイズ近似種 (cf. *Glycine*) とした。

MYM84 (第 8 図 1 ~ 4)

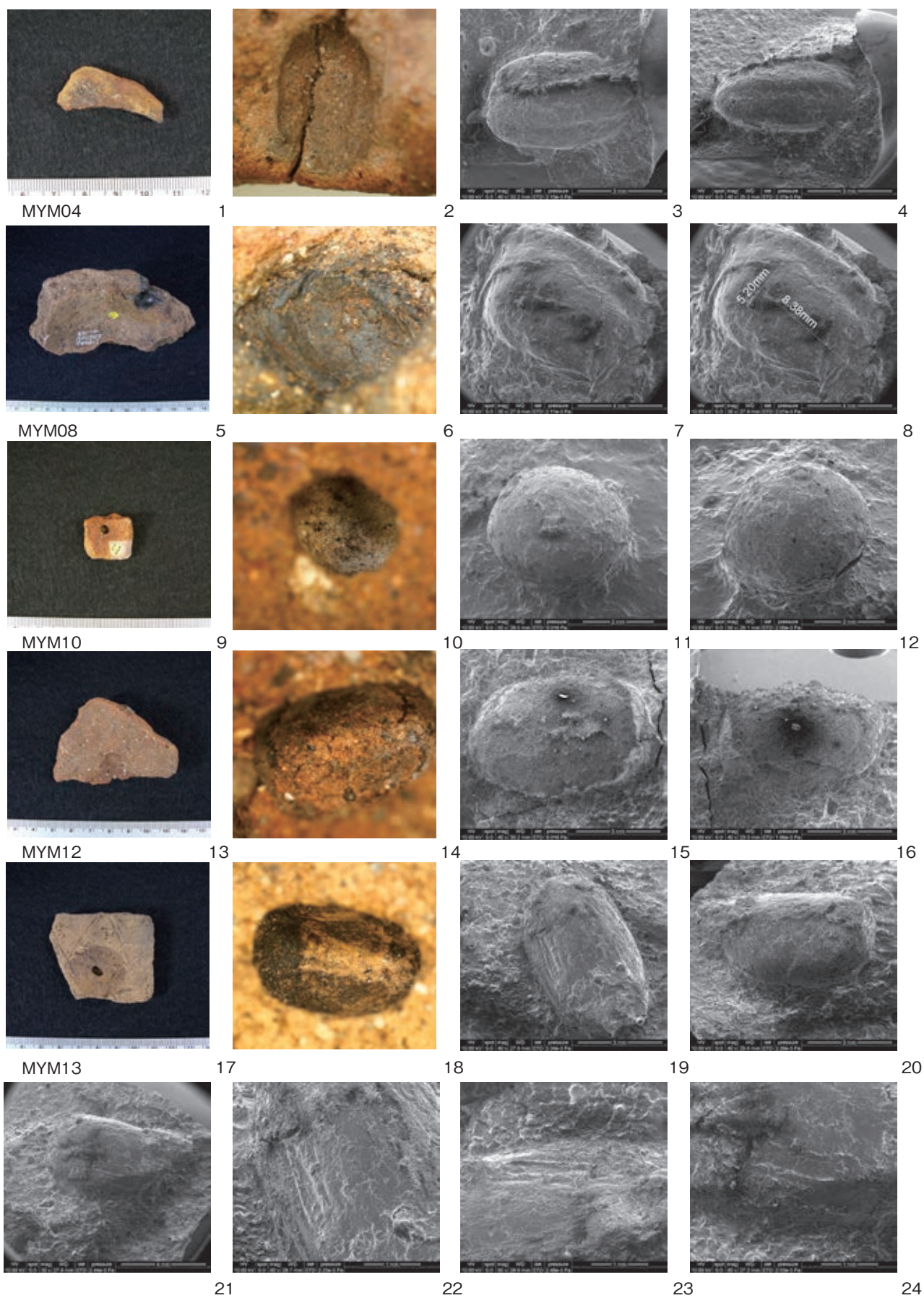
縄文を地文とする深鉢形土器胴部片。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、現存長 7.1mm、幅 5.2mm、厚さ 3.6mm の扁平な楕円形を呈する。長軸中央部に現存長 2.7mm、幅 1.1mm の長円形の臍が存在する。臍は臍縁で囲まれ、内部中央部に臍溝が認められる。表皮はしわ状の凹凸がある。大きさ、形状、露出型の臍などの特徴から、ダイズ (*Glycine max subsp. max*) と判断される。

MYM89 (第 8 図 5 ~ 8)

無文の深鉢形土器胴部片。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 9.7mm、幅 5.6mm の扁平な楕円形を呈する。表皮はしわ状の凹凸がある。大きさ、形状はダイ

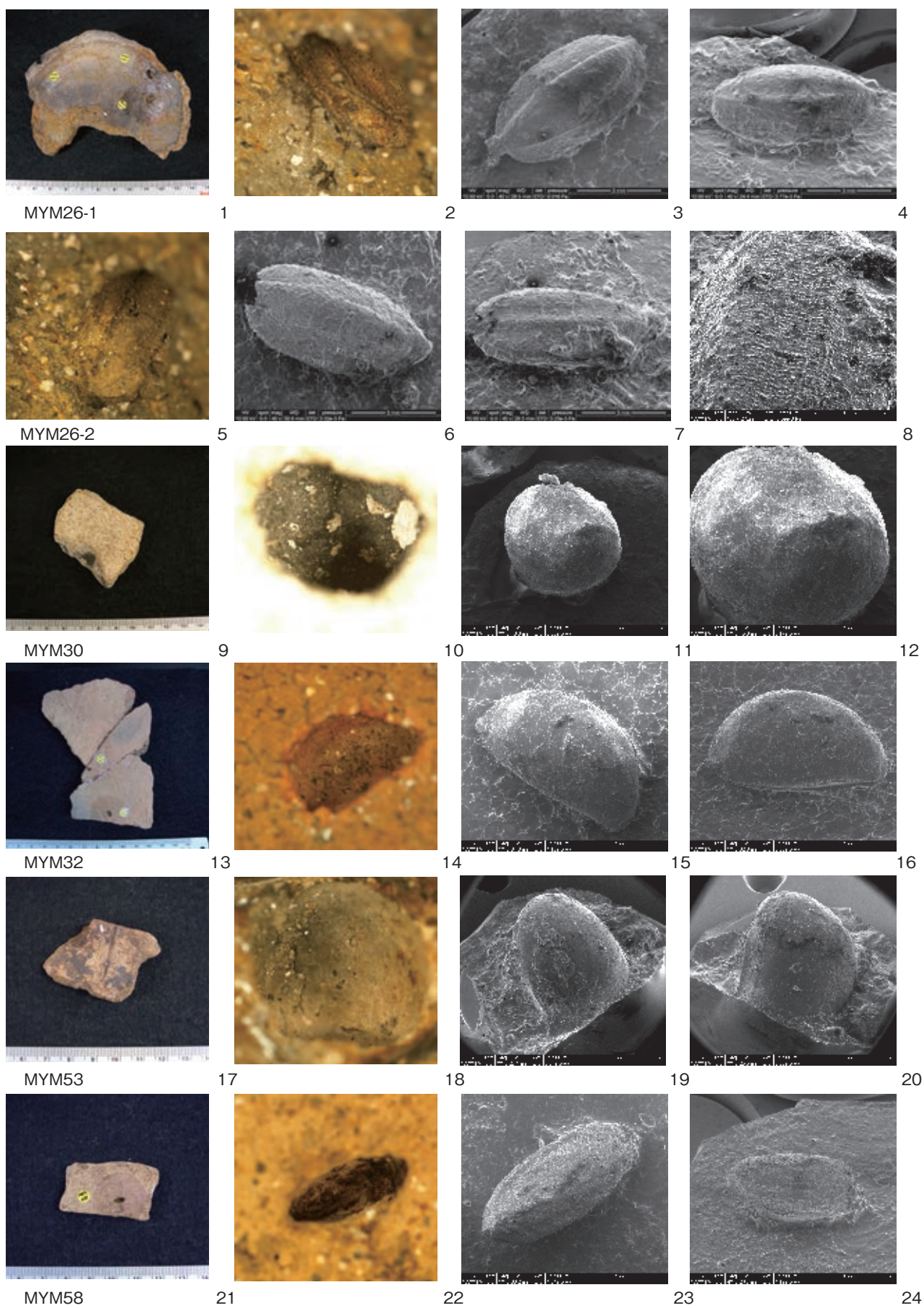


土器写真：1.5.9.13.17

圧痕実体顕微鏡写真：2.6.10.14.18

圧痕 SEM 画像：3.4.7.8.11.12.15.16.19~24

第5図 宮ノ前遺跡土器圧痕 1

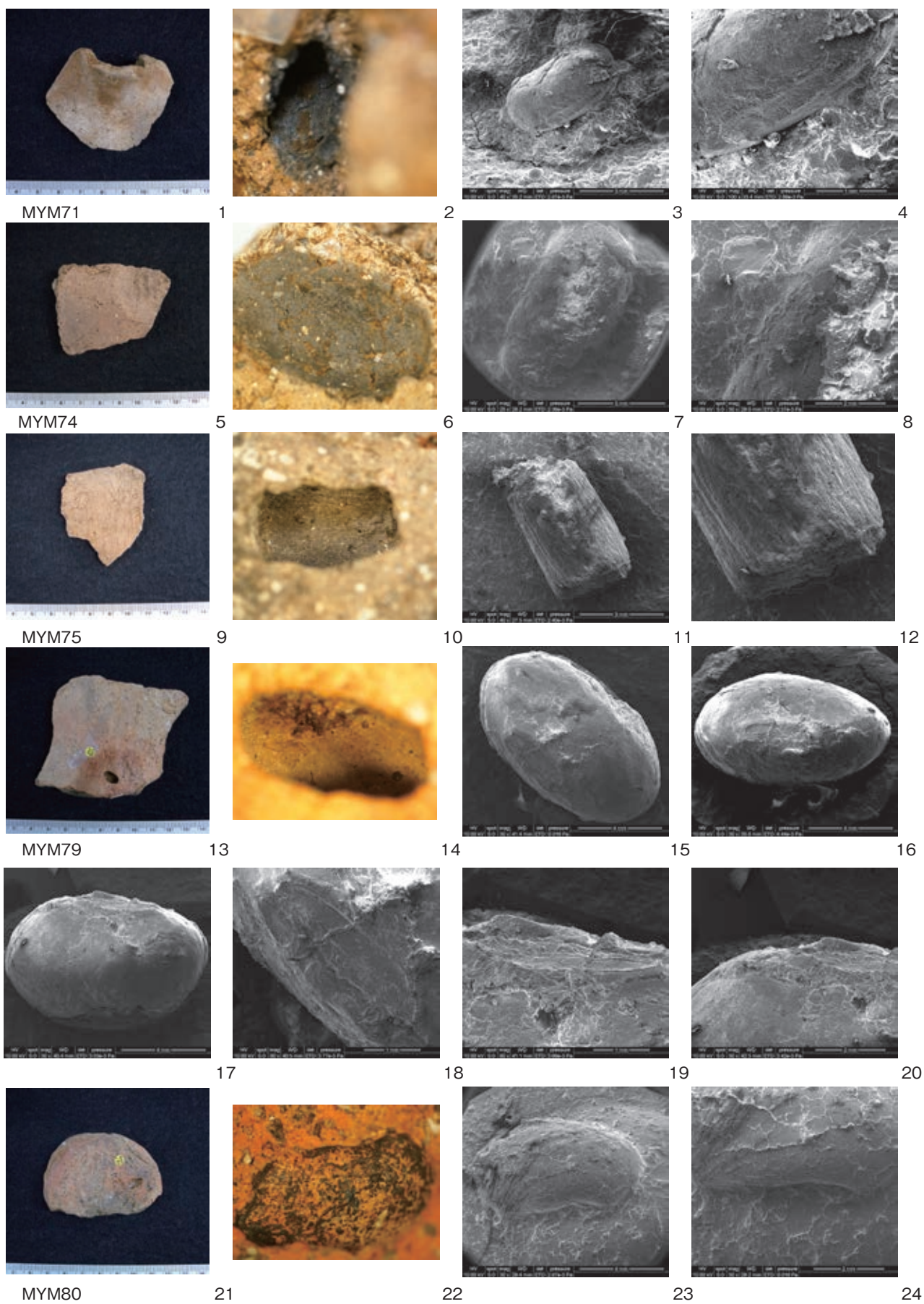


土器写真：1.5.9.13.17.21

圧痕実体顕微鏡写真：2.6.10.14.18.22

圧痕 SEM 画像：3.4.7.8.11.12.15.16.19.20.23.24

第6図 宮ノ前遺跡土器圧痕2



土器写真：1.5.9.13.21

圧痕実体顕微鏡写真：2.6.10.14.18.22

圧痕 SEM 画像：3.4.7.8.11.12.15~20.23.24

第7図 宮ノ前遺跡土器圧痕3

ズに類似するが、臍などが不明であるためマメ科 (Fabaceae) とした。

MYM97 (第8図9～12)

無文の深鉢形土器胴部片。外面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 5.4mm の円筒形を呈し、表皮には縦方向に凹凸が見られる植物の茎片ないしは木材片と考えられる。

MYM100 (第8図13～16)

無文の深鉢形土器胴部片。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 5.0mm、幅 2.6mm の楕円形を呈し、表皮には縦方向に維管束と見られる隆起部が認められるが、同定の特徴となる部位が認められず不明種とした。

MYM102 (第8図17～20)

平安時代の土器胴部片。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 4.9mm、幅 3.1mm の両端部が丸い俵状を呈する。表皮は平滑である。大きさ、形状はアズキに類似するが、臍などが不明であるためマメ科 (Fabaceae) とした。

MYM105 (第8図21～24)

平安時代の甕口縁部片。外面から圧痕が検出された。

圧痕は、直径 4.6mm のややいびつな球状を呈する。先端部に長さ 1.0mm ほどの露出型の臍があり、臍溝が中央に走る。表皮はほぼ平滑である。マメ科 (Fabaceae) とした。

MYM108 (第9図1～4)

平安時代の土師器坏。内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 5.9mm、幅 2.9mm、厚さ 2.5mm の俵状を呈する。表皮は平滑である。大きさ、形状はアズキに類似するが、臍などが不明であるためマメ科 (Fabaceae) とした。

MYM111 (第9図5～8)

無文の壺胴部破片で、内面および断面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 5.8mm、幅 3.3mm の扁平な楕円形を呈し、基部に小穂軸が認められ、先端部が欠損する。表皮は顆粒状突起で覆われ、長軸方向に維管束に伴う隆起部が見られ、内外穎が明瞭に認められる。大きさ、形状、表皮の特徴から、イネ (*Oryza sativa* L.) と判断される。

MYM112 (第9図9～12)

弥生土器破片で、内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 6.6mm、幅 3.4mm の扁平な楕円形を呈し、先端部には芒の基部が残され、その先端部が欠損した痕跡が認められる。表皮は顆粒状突起で覆われ、長軸方向に維管束に伴う隆起部が見られ、内外穎が明瞭に認められる。大きさ、形状、表皮の特徴から、イネ (*Oryza sativa* L.) と判断される。

MYM113 (第9図13～16)

弥生時代後期の甕形土器頸部破片で、外面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 6.3mm、幅 3.2mm の扁平な楕円形を呈し、基部と先端部が欠損している。表皮は顆粒状突起で覆われ、長軸方向に維管束に伴う隆起部が見られ、内外穎が明瞭に認められる。大きさ、形状、表皮の特徴から、イネ (*Oryza sativa* L.) と判断される。

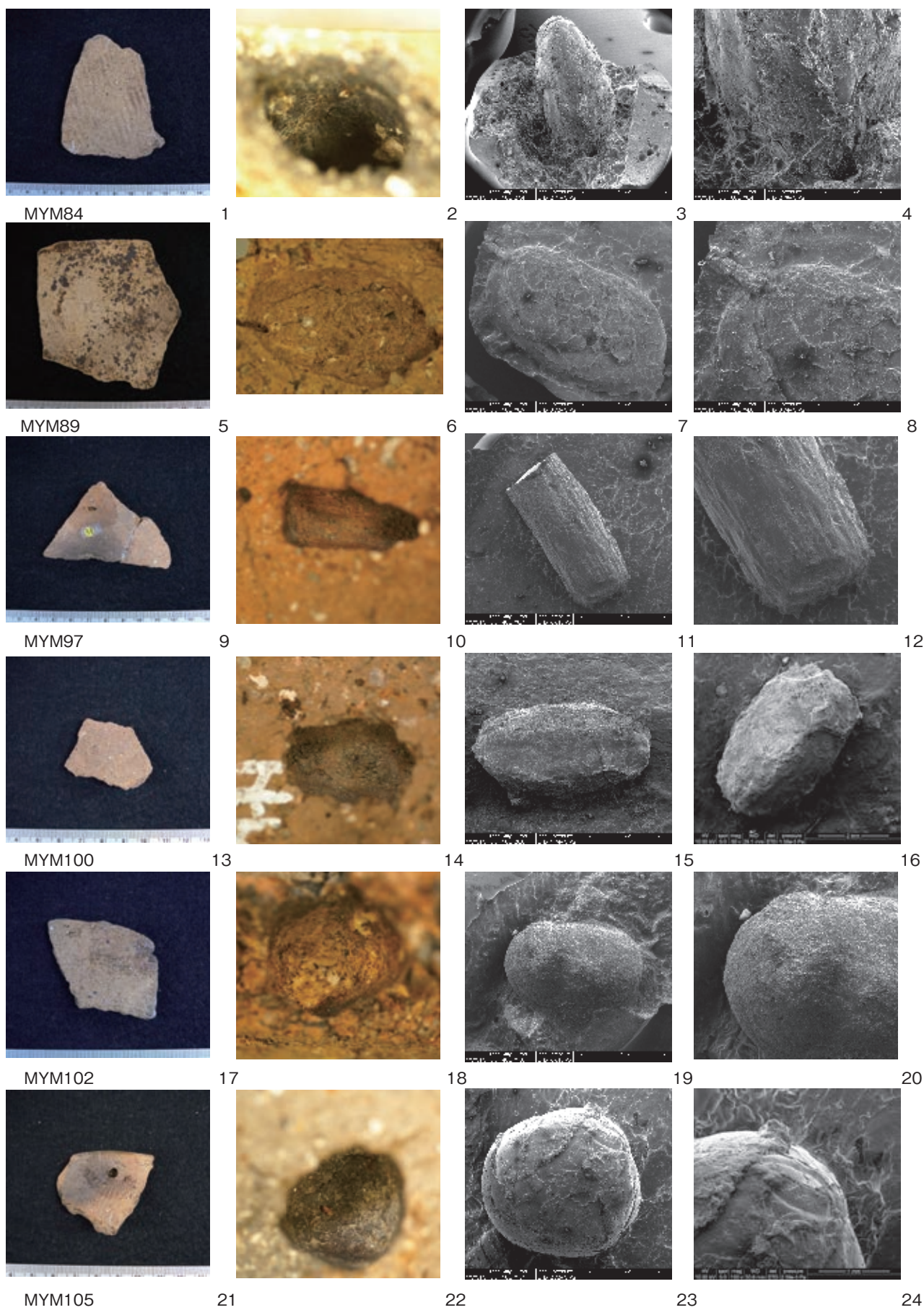
MYM115 (第9図17～20)

平安時代の長胴甕形土器口縁部破片で、内面から圧痕が検出された。

圧痕は、長さ 5.7mm、幅 2.6mm の扁平な楕円形を呈し、基部に小穂軸が認められ、先端部が欠損する。表皮は顆粒状突起で覆われ、長軸方向に維管束に伴う隆起部が見られ、内外穎が明瞭に認められる。大きさ、形状、表皮の特徴から、イネ (*Oryza sativa* L.) と判断される。

MYM116 (第9図21～24)

平安の甕形土器胴部破片で、内面から圧痕が検出された。

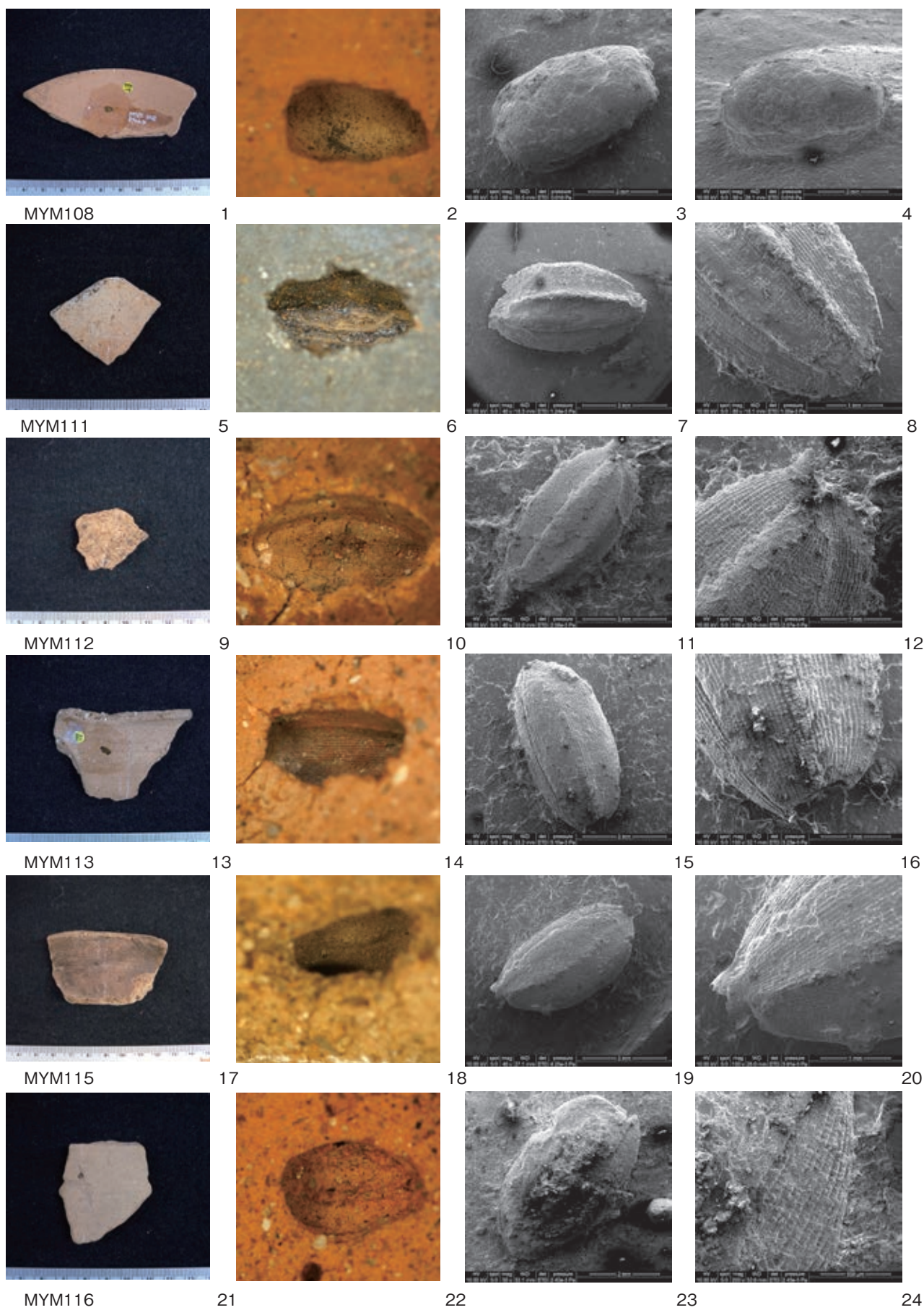


土器写真：1.5.9.13.17.21

圧痕実体顕微鏡写真：2.6.10.14.18.22

圧痕 SEM 画像：3.4.7.8.11.12.15.16.19.20.23.24

第8図 宮ノ前遺跡土器圧痕 4



土器写真：1.5.9.13.17.21

圧痕実体顕微鏡写真：2.6.10.14.18.22

圧痕 SEM 画像：3.4.7.8.11.12.15.16.19.20.23.24

第9図 宮ノ前遺跡土器圧痕 5

圧痕は、長さ 5.2mm、幅 3.2mm の扁平な楕円形を呈し、基部と先端部が欠損している。表皮は一部で顆粒状突起が認められる。長軸方向に維管束に伴う隆起部が見られ、内外穎が明瞭に認められる。大きさ、形状、表皮の特徴から、イネ (*Oryza sativa* L.) と判断される。

5 小結

以上で明らかにしてきたように宮ノ前遺跡では、肉眼観察で圧痕土器として抽出された 116 点の土器からイネ (*Oryza sativa* L.) 8 点、ダイズ (*Glycine max* subsp. *max*) 3 点、ダイズ近似種 (cf. *Glycine max*) 1 点、アズキ (*Vigna angularis*) 2 点、マメ科 (Fabaceae) 5 点、不明種 7 点を含む植物種子圧痕が確認された。

遺跡は縄文時代から平安時代までの複合遺跡であり、幅広い時代での居住が認められている。本圧痕調査においても、時代の枠を超えて悉皆的に調査が行われたことは、利用植物や穀物の時代的な変化を知る意味で非常に重要な情報を持っている。

縄文時代中期から後期の土器からは、ダイズやアズキなどのマメ科の種実が認められ、八ヶ岳山麓や茅ヶ岳山麓地域の同時期の遺跡と同じ植物利用の傾向が看取される。イネは、弥生時代前期以降の土器から検出がされ、現状で把握されている稲作伝播の時期とも整合的である。

引用文献

- 丑野 毅・田川裕美 1991 「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24 pp.13-35 日本文化財科学会
韮崎市遺跡調査会他 1992 『宮ノ前遺跡 - 韮崎市韮崎北東小学校建設に伴う発掘調査報告書』